



これは何のメッセージ？

—アカシジミ—

津軽白神森林生態系保全センター 専門官 有本 実

皆さん、チョウと言えば草原のお花畑を舞うイメージをお持ちではないでしょうか？今回ご紹介するアカシジミ①は山地性で、さらに言えば木の上ばかり飛び回る樹上性のチョウです。それもそのはず、幼虫はミズナラやコナラなどブナ科の葉を食べて成長するのです。

面白いのはその生態で、6～7月に羽化した成虫♀は交尾を終えると、翌年に新芽が出る休眠芽の付け根に産卵します。卵で越冬して翌春、ミズナラの葉が芽吹く頃に幼虫が孵化すると、すぐに柔らかくて食べやすい餌にあ



①アカシジミ

りつける、という訳です。葉が開ききって堅くなり、食べづらくなる頃には蛹になって、初夏に羽化して夏山を謳歌する…という具合に、木の生長と自身のライフサイクルを見事に同調

させているのです。それほど珍しいチョウではありませんが、濃緑色の夏山ではオレンジ色が綺麗に映えて、見つけると嬉しくなります。

今から6年ほど前、青森県弘前市のとある一角でアカシジミが大発生している、と昆虫関係の雑誌や新聞などの誌面を賑わせました。その後紹介されることも無く終息したかと思いき、昨年時期を見計らって現地に行ってみると、凄まじい光景が広がっていました。日中、1本のクリの木の花に数百匹が群がり、黄色いはずの花が遠目にはオレンジ色に染まって見えるほどです②。夕方に樹上を飛び交う習性があるのですが、数万匹はいよいよかというチョウが砂塵のように夕空を埋め尽くす様子は、恐怖感すら覚えます③。

ある特定の昆虫が大発生すれば、その天敵も増加して個体数は元のレベルに抑えられるはずで、ここまで長期間にわたり大発生が続いている原因が私には分かりません。この現象が、人間に対する何らかの警鐘でなければ良いのですが…物言わぬ野生生物の声を聞き取れる、そんなナチュラルリストになりたいものですね。



②クリの花で吸蜜



③黄昏飛翔